

## 富山県小矢部市におけるホクリクサンショウウオの記録

著者	南部 久男
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	20
ページ	109-110
発行年	1997-03-25
URL	<a href="http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=681">http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=681</a>

短 報

富山県小矢部市におけるホクリクサンショウウオの記録\*

南部 久男

富山市科学文化センター

ホクリクサンショウウオは、石川県の能登半島 (Matsui and Miyazaki, 1984; 竹田, 1995; 宮崎, 1996) と、富山県中央部の丘陵地帯に分布し (富山県両生・爬虫類研究会編, 1987; 南部, 1994), 絶滅危惧種に指定されている (環境庁編, 1991)。富山県では、富山市, 小杉町, 婦中町, 大門町で記録されているが、県西部からの記録はなく、今回小矢部市で本種の卵囊を確認したので報告する。

調査概要

1996年の繁殖期に、小矢部市小森谷の平野部と接する山地の、隣接する2カ所の繁殖地で、ホクリクサンショウウオの卵囊を確認した (図1)。

以下に調査概要を述べるが、産卵状況の記述は、卵囊対No, 発生段階(沢野, 1943による), 卵数(死卵数も含む。括弧内に死卵数を示す), 卵囊付着物, 卵囊付着水深, 卵囊確認場所の水深の順に記し、不明の場合は棒線 (—) で示した。

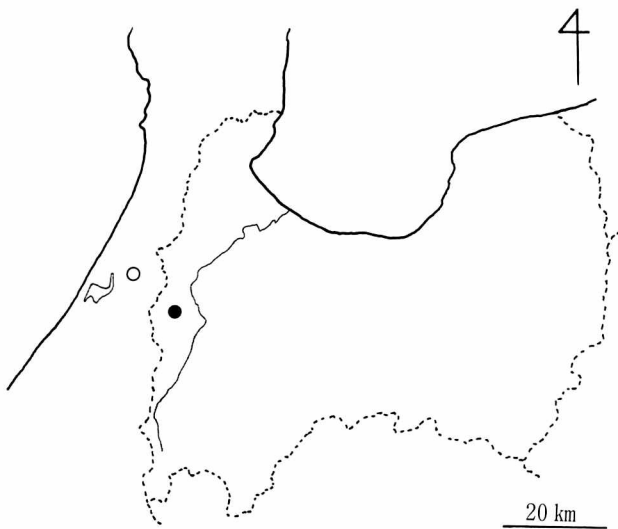


図1. ホクリクサンショウウオの新産地

●富山県小矢部市の新産地, ○石川県津幡町の既知産地を示す (Matsui and Miyazaki, 1984 より作図)。

**A地点:** 3月12日調査。谷の上流部 (標高110m) の棚田状の湿地で、谷の両側に水が流れ、溢れた水が湿地をつくっている。奥行き約15m, 幅約10mの湿地の右岸側で卵囊が2対確認できた。確認場所には、落ち葉が堆積し、底質は泥であった。産卵状況は以下の通りである。①, st. 1, —, 6×2cmの落ち葉, 4cm, 5cm: ②, st. 1, —, 直径8mmで長さ30cmの枝, 4cm, 5cm。卵囊は、2対とも落ち葉に隠れ、水面外からはみることができなかった。流れのある部分の流速は8cm/秒であるが、卵囊が確認できた場所は、落ち葉が堆積し、流れはほとんど無い。水温は5.0°Cであった。

**B地点:** 4月7日調査。谷からさらに分かれた奥行き100m, 下流部の幅20mほどの谷の源流部である。谷の下流部は水田となっているが、上流部は放棄田となっている。源流部からは水がしみだし、左右に分かれ谷にそって小川となって流れる。長さ10m, 幅30cm程の浅い流れとなっている場所で卵囊が確認された。小川には、落ち葉が堆積し、底質は泥であった。卵囊は計3対確認され、産卵状況は次の通りである。①, st. 26, 24 (0)+31 (3), 直径2mmで長さ5cmの茎, 1cm, 2cm: ②, st. 20, —, 付着物不明, 1cm, 2cm, ③, st. 26, 25 (0), st. 24, 26 (0), 付着物不明。卵囊が確認された場所の泥の厚みは8cmであった。卵囊は落ち葉に隠れ、水面外からはみることができなかった。落ち葉を除いた時の流速は、3.8cm/秒、水温は8.5°Cであった。

今回確認された地点は、石川県と富山県の県境の宝達丘陵の南に位置し (図1), 石川県側の分布の南限である津端町 (Matsui and Miyazaki, 1984) と地理的に近い。なお、最近の調査では、津端町からは本種は確認されていない (宮崎光二, 1996)。また、松井 (1991) は、宝達丘陵の東側の富山県氷見市を本種の産地としてあげているが、現在のところ確実な記録ではないと思われる。

既知の石川県の報告 (Matsui and Miyazaki, 1984; 竹田, 1995; 宮崎, 1996) と富山県の報告 (富山県両生・爬虫類研究会編, 1987; 南部, 1994) 及び今回の新産地から、現在までの本種の分布を山塊で大まかに区分してみると、能登半島中央部から北部の邑知瀧以北の奥能登丘陵、能登半島南部の宝達丘陵、富山県中央部の丘陵地帯に分けられると思われる。東限は富山市の呉羽丘陵である。

\* 富山市科学文化センター研究業績第187号

文 献

- 環境庁編, 1991. 日本の絶滅の恐れのある野生生物, レッドデータブック, 脊椎動物編. 財団法人自然環境研究センター, 東京. pp.271.
- 松井正文, 1991. ホクリクサンショウウオ. 「日本の絶滅の恐れのある野生生物, レッドデータブック, 脊椎動物編」(財団法人自然環境研究センター): 238-239.
- Matsui M. and K. Miyazaki, 1984. *Hynobius takedai* (Amphibia, Urodella) a new species of salamander from Japan. Zool. Sci. 1(4): 665-671.
- 宮崎光二, 1996. ホクリクサンショウウオ. 石川県の両生・爬虫類: 3-5. 石川県.
- 南部久男, 1994. 富山市におけるホクリクサンショウウオの産卵状況, 卵数及び卵囊の形態. 富山市科学文化センター研究報告, (17): 105-115.
- 沢野十蔵, 1943. 東北山椒魚の発生段階図. ぐろす文庫, pp.7, pls. 7. 札幌.
- 竹田俊雄, 1995. ホクリクサンショウウオ. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料」(日本水産資源保護協会): 401-404.
- 富山県両生・爬虫類研究会編, 1987. 富山県の両生類・爬虫類. 富山県. pp.66.